平成24年度文化芸術振興費補助金
（トップレベルの舞台芸術創造事業）

# モーツァルト室内管弦楽団　第149回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester / 149. Regulärkonzert

〈ベートーヴェン・シリーズ〉その2

## 2012年9月9日（日）午後2時 ■ いずみホール

Sonntag, 9. September, 2012, 14:00Uhr *Izumi Hall*, Osaka

■主催：モーツァルト室内管弦楽団 http://www.hi-ho.ne.jp/mozart/

■協賛：いずみホール〔財団法人　住友生命社会福祉事業団〕

■マネジメント：大阪アーティスト協会 E-mail:artists@gol.com
〒530-0041 大阪市北区天神橋2-5-25-909　Tel 06-6135-0503
http://www.oaa1985.com

心からの…

本公演は大阪ユニセフ協会を通じて、東日本大震災被災地の子どもたちのための募金活動を行います

# モーツァルト室内管弦楽団　第149回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester / 149. Regulärkonzert

**2012年9月9日（日）2:00pm. ● いずみホール**

Sonntag, 9. September, 2012, 14:00Uhr ● Izumi Hall, Osaka

## 〈ベートーヴェン・シリーズ〉その2

### ベートーヴェン

Ludwig van Beethoven (1770-1827)

**歌劇《フィデリオ》作品72　序曲**

Ouvertüre zur Oper „Fidelio" op.72

**ヴァイオリン協奏曲　ニ長調　作品61*〈高木和弘協奏曲シリーズ〉④**

Konzert D-dur für Violine und Orchester op.61*

Ⅰ. Allegro ma non troppo
Ⅱ. Larghetto
Ⅲ. Rondo : Allegro

*　　*　　*

**交響曲　第6番　ヘ長調　作品68《田園》**

Sinfonie Nr.6 F-dur op.68 „Pastral-Sinfonie"

Ⅰ. 田舎に着いて目覚める晴れ晴れとした気分 : Allegro ma non troppo
Ⅱ. 小川のほとりの情景 : Andante molto moto
Ⅲ. 村人たちの楽しげな集い : Allegro
Ⅳ. 雷、嵐 : Allegro
Ⅴ. 牧人の歌－嵐の後の喜ばしい感謝に満ちた気持 : Allegretto

ヴァイオリン独奏* : **高木　和弘** / Violinen-Solo* : Kazuhiro Takagi
管弦楽 : **モーツァルト室内管弦楽団** / Orchester : Mozart-Kammerorchester
コンサートマスター : **釋　伸司** / Konzertmeister : Shinji Shaku
指　揮 : **門　良一** / Dirigent : Ryoichi Kado

―――― 次回〈ベートーヴェン・シリーズ〉その3・予告 ――――

2013年7月6日（土）午後2時　いずみホール
モーツァルト室内管弦楽団　第154回定期演奏会
《エグモント》序曲　作品84
ロマンス　ト長調　作品40、ヘ長調　作品50
交響曲　第3番　変ホ長調　作品55《英雄》
ヴァイオリン独奏：菊本恭子　　指揮：門　良一

## 交響曲の革命児、ベートーヴェン

番号の付いているものだけでハイドンは104曲、モーツァルトは41曲もの交響曲を書いた。ベートーヴェンはご承知の通り9曲だけである。この数字を見ただけで、ベートーヴェン以前と以後とでは交響曲というジャンルに何か本質的な変化が生じた、ということが察せられよう。

「交響曲の父」といわれたハイドンはこのジャンルにおいて様々な実験を行った。彼の交響曲には劇音楽や協奏曲、当時ディヴェルティメントやセレナーデの名で呼ばれた娯楽音楽など、他のジャンルの要素が多く組み込まれている。これはひとえに交響曲を好んだ主君エステルハージ侯爵の興を買うためであった。モーツァルトは非常に興味深いことにジャンルの区別に極めて厳格であって、ハイドンのようなジャンル間の混合は行っていない。その一方で協奏曲や娯楽音楽の作品も非常に多いのである。したがって、彼の41曲という交響曲の作品数は、その35年という短い生涯を考えればハイドンを凌駕しているともいえる多さであろう。

ハイドン、モーツァルトの生きた18世紀にあっては、交響曲は音楽会の主要な曲目ではなく、音楽会の開始を告げるいわば序曲に過ぎなかった。イタリア語でオペラの序曲はSinfonia（交響曲）とも呼ばれたし、交響曲もまたOuvertura（序曲）と名付けられてもいたのである。というより、その時代の音楽作品全体が、その場限りの、再演されることの少ないものであり、作曲家は注文に応じて次から次へと新作の量産に追われていたのである。確かにハイドンは交響曲の地位を高めはしたが、その彼にしてもパリやロンドンの聴衆の人気を維持するためには新曲を次々に発表していかねばならなかった。

ベートーヴェンが登場してはじめて、交響曲は番号付けで呼ばれるようになった。ハイドンやモーツァルトの交響曲の番号というのは、はるか後世になって出版社によって便宜上付けられたものに過ぎない。ベートーヴェンは史上はじめて自作の交響曲にみずから番号を付けたのである。作品自体も、はじめて聴くものに大きなインパクトを与え、なおかつ何度も再演され何度も聴かれるべきものであり、後世に長く伝えられるべきものであると位置づけられたのである。したがって、そのように音楽的密度の高い作品の量産は不可能であり、一作曲家の生涯には数曲程度の作曲が妥当という、今日われわれが抱いている「交響曲」というイメージに近い概念がベートーヴェンによってはじめて産み出されたといえよう。

このことは、よくいわれるように時代が変わったのではなく、ベートーヴェンという強烈な個性によって新しい時代が切り開かれたというべきではあるまいか。交響曲にとどまらず音楽作品全体が、貴族の依頼や出版社の要請によってではなく、作曲家みずからの意思と意欲によって産み出されるという、今日当然のように思われている状況がベートーヴェンによって新しく到来したのである。特に交響曲というジャンルはベートーヴェンによって革命的なな変貌を遂げ、シューベルト以後のロマン派作曲家たちによって忠実に継承されていったのである。

## 交響曲の革命児、ベートーヴェン

番号の付いているものだけでハイドンは104曲、モーツァルトは41曲もの交響曲を書いた。ベートーヴェンはご承知の通り9曲だけである。この数字を見ただけで、ベートーヴェン以前と以後とでは交響曲というジャンルに何か本質的な変化が生じた、ということが察せられよう。

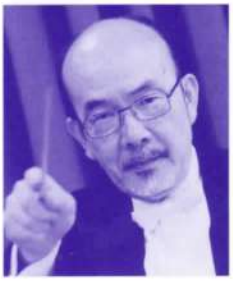
「交響曲の父」といわれたハイドンはこのジャンルにおいて様々な実験を行った。彼の交響曲には劇音楽や協奏曲、当時ディヴェルティメントやセレナーデの名で呼ばれた娯楽音楽など、他のジャンルの要素が多く組み込まれている。これはひとえに交響曲を好んだ主君エステルハージ侯爵の興を買うためであった。モーツァルトは非常に興味深いことにジャンルの区別に極めて厳格であって、ハイドンのようなジャンル間の混合は行っていない。その一方で協奏曲や娯楽音楽の作品も非常に多いのである。したがって、彼の41曲という交響曲の作品数は、その35年という短い生涯を考えればハイドンを凌駕しているともいえる多さであろう。

ハイドン、モーツァルトの生きた18世紀にあっては、交響曲は音楽会の主要な曲目ではなく、音楽会の開始を告げるいわば序曲に過ぎなかった。イタリア語でオペラの序曲はSinfonia（交響曲）とも呼ばれたし、交響曲もまたOuvertura（序曲）と名付けられてもいたのである。というより、その時代の音楽作品全体が、その場限りの、再演されることの少ないものであり、作曲家は注文に応じて次から次へと新作の量産に追われていたのである。確かにハイドンは交響曲の地位を高めはしたが、その彼にしてもパリやロンドンの聴衆の人気を維持するためには新曲を次々に発表していかねばならなかった。

ベートーヴェンが登場してはじめて、交響曲は番号付けで呼ばれるようになった。ハイドンやモーツァルトの交響曲の番号というのは、はるか後世になって出版社によって便宜上付けられたものに過ぎない。ベートーヴェンは史上はじめて自作の交響曲にみずから番号を付けたのである。作品自体も、はじめて聴くものに大きなインパクトを与え、なおかつ何度も再演され何度も聴かれるべきものであり、後世に長く伝えられるべきものであると位置づけられたのである。したがって、そのように音楽的密度の高い作品の量産は不可能であり、一作曲家の生涯には数曲程度の作曲が妥当という、今日われわれが抱いている「交響曲」というイメージに近い概念がベートーヴェンによってはじめて産み出されたといえよう。

このことは、よくいわれるように時代が変わったのではなく、ベートーヴェンという強烈な個性によって新しい時代が切り開かれたというべきではあるまいか。交響曲にとどまらず音楽作品全体が、貴族の依頼や出版社の要請によってではなく、作曲家みずからの意思と意欲によって産み出されるという、今日当然のように思われている状況がベートーヴェンによって新しく到来したのである。特に交響曲というジャンルはベートーヴェンによって革命的なな変貌を遂げ、シューベルト以後のロマン派作曲家たちによって忠実に継承されていったのである。

# Profiles



## 門　良一●指揮　Ryoichi Kado, Dirigent

1939年大阪生まれ。フルートを曽根亮一氏に、指揮法を青山政雄氏に師事。62年京都大学理学部卒業、67年同大学院修了。70年同志とともにモーツァルト室内管弦楽団を創立、常任指揮者となり現在に至る。87年、モーツァルトのピアノ協奏曲全27曲、交響曲全74曲の連続演奏完結に対し、モーツァルト室内管弦楽団とともに第5回藤堂音楽賞を受賞。
1982～2011年、NHK大阪文化センター、1992～2011年、神戸文化センターにおいて「モーツァルトを聴く」の講師を務める。京都産業大学名誉教授。

## 髙木和弘●ヴァイオリン独奏　Kazuhiro Takagi, Violinen-Solo

フランス国立リヨン高等音楽院を首席卒業。南メソディスト大学、シカゴ芸術大学に学ぶ。
これまでに森悠子氏、E·ウルフソン氏に師事。
97年エリザベート王妃国際音楽コンクール入賞、98年ジュネーブ国際音楽コンクール第3位（1位なし）。2001年フィショッフ室内楽コンクール第1位受賞。2005年度文化庁芸術祭新人賞、大阪文化祭賞大賞受賞。2007年度第19回ミュージック·ペンクラブ音楽賞オーディオ部門録音作品賞を受賞。
ドイツヴュルテンベルク·フィルハーモニー管弦楽団の第1コンサートマスター、大阪センチュリー交響楽団首席客演コンサートマスターを経て現在、東京交響楽団コンサートマスター、山形交響楽団ソロ·コンサートマスター。長岡京室内アンサンブル、いずみシンフォニエッタ大阪、Eusia弦楽四重奏団の各メンバーとしても活躍中。
http://www.kazuhirotakagi.com

## モーツァルト室内管弦楽団　Mozart - Kammerorchester

1970年に指揮者 門 良一によって設立され、40年間一貫して30数名のメンバー構成を維持するわが国では数少ない本格的プロ室内オーケストラである。レパートリーはモーツァルト、ハイドン、ベートーヴェンを中心とした古典派からバロック、前期ロマン派に及び、最近ではフランス近代の作品にも手を伸ばしている。モーツァルトに関しては交響曲と協奏曲の全曲を演奏した日本唯一のオーケストラであり、創立当初から新モーツァルト全集に準拠した楽譜を使用していることは注目に値する。'91年のモーツァルト没後200年に際しては2年にわたり記念シリーズを催し、なかでもモーツァルトの予約演奏会プログラムを完全に再現した日本初の企画は大いに話題を呼んだ。演奏スタイルは中規模編成の特色をフルに生かしたもので、的確なテンポ、明快なリズム、清澄なサウンドは定評のあるところである。関西一円で演奏活動を展開するなかで'90年からは大阪いずみホールを本拠に年6回の定期演奏会を開催し、また'74年からは東京定期演奏会を隔年で開催し、既に17回を数えている。海外では'88年にはドイツ民主共和国文化省の招聘による旧東独国内への演奏旅行を成功させている。内外の著名アーティストと数多く協演しており、なかでもマリア·ジョアオ·ピリス（'85、'87年）、シプリアン·カツァリス（'93、'94年）、ペーター·ダム（'83、'86、'88、'98、'00年）、ウィーンフィル木管アンサンブル（'86年）、ライナー·キュッヒル（'90年）らとの名協演はいまも語り草となっている。'91年に姉妹団体、モーツァルト記念合唱団を誕生させ宗教曲などで活発に協演するほか、'93年には堺シティオペラとの協力による〈モーツァルト·オペラシリーズ〉を開始し、いずれも好評をもって迎えられている。'06年1月にはモーツァルト生誕250年記念特別企画としてオペラ《イドメネオ》の世界初オリジナル·ノーカット版演奏会形式上演を挙行し絶賛を浴びた。**「素晴らしい成果」（毎日新聞）、「この楽団は注目」（朝日新聞）**。2007～9年には全10回にわたる〈没後200年記念ハイドン·シリーズ〉を、2009年～11年には全18回にわたる〈創立40周年シリーズ〉を開催。また2010年からは〈ベートーヴェン·シリーズ〉を開始している。

### モーツァルト室内管弦楽団／出演メンバー

**コンサートマスター●釋　伸司**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第1ヴァイオリン | 釋　伸司 | | 田原口安代 | コントラバス | 田中　寿代 | ファゴット | 佐伯　利之 |
| | 本多　智子 | | 幣　晴代 | | 武村　浩嗣 | | 倉永　晴美 |
| | 谷口　朋子 | | 清水めぐみ | | 松本　友樹 | ホルン | 細田　昌宏 |
| | 北村　奈美 | ヴィオラ | 道幸　明美 | フルート | 大江　浩志 | | 佐藤　明美 |
| | 松本　紗希 | | 佐份利祐子 | | 久保田裕美 | | 小坂　智美 |
| | 菊池　優理 | | 三上　哲 | | 本庄ちひろ | | 垣本奈緒子 |
| | 森住　憲一 | | 白木原有子 | オーボエ | 福田　淳 | トランペット | 大西　由起 |
| | 中野　瑞己 | チェロ | 石　豊久 | | 中江　暁子 | | 滝村　洋子 |
| 第2ヴァイオリン | 中川　敦史 | | 野田　祐子 | クラリネット | 髙橋　博 | トロンボーン | 森岡　佐和 |
| | 増永　花恵 | | 境　綾子 | | 門　小夜子 | | 池田　千紗 |
| | 川島多美子 | | 石塚　俊 | | | パーカッション | 泉　純太郎 |

# モーツァルト室内管弦楽団 後援会

事務局TEL (06) 6135-0503 / FAX (06) 6135-0504
〒530-0041 大阪市北区天神橋2-5-25-909 大阪アーティスト協会内

**会長代理** 谷口安平（京都大学名誉教授）
**理　事** 吉野泰生（住友生命保険相互会社名誉顧問）
**監　事** 玉井英二（三井住友カード特別顧問）
**顧　問** 伊藤郁太郎（大阪市立東洋陶磁美術館館長）　梅原　猛（国際日本文化研究センター顧問）
（50音順）

**法人会員**（50音順）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 荒川化学工業 | 阪野商店 | 住友倉庫 | 林六 |
| 井上冷熱 | サントリーホールディングス | ダイキン工業 | 福山製紙 |
| 関西電力 | 住友金属工業 | 大同ケミカルエンジニアリング | 丸山興産 |
| きんでん | 住友精密工業 | 高松建設 | 三井住友カード |
| 小林製薬 | 住友生命保険 | 中西金属工業 | |

**個人会員**（入会順、敬称略）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 松井繁一 | 石上豊子 | 高杉方宏 | 得田栄蔵 | 松井香代子 | 西垣真理子 |
| 深田晴世 | 村本孝夫 | 川島弘章 | 菱谷勝次郎 | 山本道子 | 榎原良行 |
| 河野幹雄 | 松本幸道 | 川島啓助 | 足立宣治 | 大磯隆一 | 渡辺義明 |
| 河野奈津子 | 笹川忠士 | 中井武司 | 東武次郎 | 細井提吉 | 小川雄介 |
| 福岡隆子 | 緒林桂子 | 中井佐和子 | 竹林大 | 大原清司 | 能田久美 |
| 梅原一哲 | 碓井昭彦 | 豊田成子 | 豊田紘生 | 大原典子 | 下園靖子 |
| 石本三千也 | 碓井みち子 | 切畑敦詞 | 飯田祐子 | 伊藤久栄 | 河井洋子 |
| 田村眞也 | 長井重龜 | 中東富佐子 | 宮井芳子 | 山村哲夫 | 宮北浩司 |
| 岸田克己 | 岸田多門 | 三石武男 | 塩脇昭司 | 速水洋紀 | 奥村一二 |
| 梅村博也 | 能田豊 | 内藤芳美 | 塩脇祥子 | 天尾登 | 市崎英二 |
| 屋良卍佐治 | 宮井茂治 | 神林恒道 | 一木晃 | 橋本博 | 櫛木好明 |
| 國友正和 | 祐野尚子 | 杉浦和子 | 岩崎弘一 | 梁瀬健 | 深山浩 |
| 稲垣千代子 | 金定秀光 | 野村透 | 河渕清子 | 松山壽一 | 加藤啓子 |
| 浮田俊太郎 | 金定嘉也子 | 今井安男 | 佐竹時子 | 松谷郁子 | 田中汎子 |
| 桑山弘 | 中嶋允子 | 玉手隆子 | 荒木陽子 | 山下鉄男 | 安井敏雄 |
| 三谷郁子 | 福岡昭吉 | 野崎志朗 | 宮崎悦朗 | 古川法史 | 門謙二郎 |
| 三浦信一郎 | 菅正徳 | 橋本靖昭 | 栗原順子 | 萬野尊昭 | 早川俊六 |
| 水島敬夫 | 日高穂 | 有賀熙雄 | 野口祐三 | 植田史子 | 東信 |
| 渡辺優子 | 藤原啓助 | 佐野哲郎 | 野口外志子 | 松本桂子 | 森原隆繁 |
| 平川美津子 | 馬場明和 | 小柳陽一 | 森本武 | 佐野哲昭 | 廣田雅良 |
| 安藤邦洋 | 阪野和子 | 田中四郎 | 小山浩 | 池田米 | 匿名1名 |
| 橋本太三雄 | 和田暁夫 | 島村猛 | 野原清秀 | 八木孝昌 | |
| 阿部由美子 | 桑名孝子 | 河原恭子 | 堀正二 | 高田早智子 | |
| 中川泰幸 | 石光正男 | 松井とも子 | 松井基純 | 大西富久子 | |

**会　費**・個人会員につきましては年会費1口2万円です。
・法人会員につきましては年会費1口10万円です。
（有効期間は入会時より1年間です。随時ご入会いただけます。）

**会員の特典**・年間6回の自主公演にご招待致します。（1口に付き個人各1枚、法人各5枚）
・ご同伴者は10%割引となります。
・関連演奏会のご案内又はご優待を致します。
・定期演奏会プログラムにご芳名を記載させていただきます。
・会報「ディヴェルティメント」をお送り致します。